

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|-----------|------------|
| 事業所番号 | 3770300576 | | |
| 法人名 | 医療法人社団西山脳神経外科病院 | | |
| 事業所名 | グループホーム メイプル | | |
| 所在地 | 香川県坂出市加茂町591番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年10月22日 | 評価結果市町受理日 | 平成26年2月21日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action=kouhvu_detail_2010_022_kani=true&JisyosyoCd=3770300576-00&PrefCd=37&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人香川県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 香川県高松市番町一丁目10番35号 |
| 訪問調査日 | 平成27年12月13日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

メイプルは5階にあり、建物の場所や外観は家庭的な雰囲気が少ないが、外出や買物や畑などを通じて閉じこもらない生活を心掛けています。メイプル内で集団レクが主でした、話合って個別のレクを中心に現在では行うようにしています。地域交流では、地区の神社の掃除をしたり、府中地区の行事の参加や、地区の文化祭に参加しながら交流をしています。医療は24時間体制で対応しています、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士との連携で必要な方はリハビリも充実しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

当事業所は、「心やすらぐあったかコミュニティ」という理念のもと、業務優先ではなく、利用者の生活リズムを大切に、利用者が家庭的な雰囲気の中で、落ち着いてゆっくりと過ごすことができるように支援している。管理者は基本方針を示しつつ、職員の意見や提案を取り入れ、職員が主体的に業務に取り組めるよう心掛けている。また、家族の面会の際には積極的に利用者の近況報告に努めるとともに、「メイプルだより」で利用者の写真を載せるなど、家族との信頼関係の維持に取り組んでいる。ケアプランでは、アセスメントの際に職員全員で、利用者各々の「私の姿と気持ち」シートを作成するなど、利用者の意向の把握に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

| 自 己 | 外 部 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|--------|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 グループホーム メイプル | 「心やすらぐあったかコミュニティー」の理念のもと、職員全体が理解し業務にあたっている。またリビングに掲示し、毎日見るようにしている。 | 「心やすらぐあったかコミュニティー」の理念のもと、管理者は、日頃から家庭的な雰囲気づくりに努め、職員に利用者のペースに合わせた急がせない支援を行うよう指導をしている。 | 時には理念について職員間で話し合い、理念に照らして、自分たちのサービスを見直すとともに、理念の実現に資するよう年間目標や活動計画、個人目標を策定するなど期待したい。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 運営推進会議等で民生委員の方から情報を得て、府中の催し物(カヌーフェスティバル)に参加している。また文化祭に入居者様が作った作品を掲示したり、介護予防教室にも積極的に参加している。 | 地域の文化祭に利用者の作品を出展したり、介護教室等に参加したりしている。また、春や秋には、利用者と職員で、近所の神社のゴミ拾いをしている。併設の病院で認知症カフェを開催し、地域の方との交流を図っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地区の文化祭への参加、近所のあおい神社周囲のゴミ拾い。隣接の病院で認知症カフェをしており、11月から少人数で参加する予定である。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回運営推進会議を実施しており、報告や情報交換を行っている。そこで出た意見を申し送り時やカンファレンス時に話し合い、サービス向上に活かしている。 | 2か月に1回、市の担当者や地域包括支援センターの職員、地区の民生委員等が参加して、開催している。会議では、地域のイベント等の情報や感染症対策等について助言を得るなど、サービスの向上に活かしている。 | 多様な意見が得られるよう、家族やボランティアなど、参加者の増員等を検討されることを期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に市役所の方が参加してくれ、報告したり、疑問点を聞いている。また疑問点や問題点がある時は、その都度相談し、協力関係を築けている。 | 市の担当者とは、主に運営推進会議で情報交換に努めるとともに、相談や質問等があれば随時、連絡をしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 行動把握として赤外線センサーやセンサーマットを使用している。定期的に話し合いを行い、身体拘束のないケアの実現を目指している。センサーを使う場合は、カンファで話し合い、ご家族に説明している。 | 身体拘束に該当する行為がないかどうか、カンファレンスで確認している。また、年3回の勉強会で話し合うこともある。館内を徘徊する利用者には制止せず、寄りそうケアに努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員一人ひとりに自覚を持ってもらう為、カンファレンス時に話し合いを行っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 以前入居していた方が成年後見制度を利用していましたが、その後は後見制度の利用している人はいない。勉強会等で、知識向上に努める必要がある。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時の時はご本人、ご家族に対し施設の見学やゆっくりと時間をかけて説明している。またご本人、ご家族等の意見も聞き、理解、納得を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者様とは、日頃の会話から要望を聞くようにしている、ご家族には面会時に要望を聞くようにしている。それらをケアプランに取り入れている。 | 家族の面会の際に、利用者の状況を積極的に報告するようにしている。また、事業所の便りには、各々の利用者の写真を挿入するなど、利用者の様子が伝わるよう工夫し、家族との信頼関係の維持に努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月のチームカンファレンスや全体カンファレンス時に、話し合いの場を持ち、意見を出している。 | ユニット単位でのカンファレンスや事業所全体のカンファレンスで、職員の意見や提案を聴いている。管理者は基本方針を示しつつ、日々の運営における細かいことは、職員の裁量に委ねるようにしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年に2回人事考課表で意見や要望を伝えている。また、月1回の全体カンファレンス時にも意見や要望を言う機会があり、反映される所もある。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修への参加や法人内の勉強会に参加している。また、毎月のカンファレンス時に勉強会を行い、技術や知識の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 3か月に1回、グループホーム連絡会を開催しており、市内のグループホームの方と意見交換を行ったり、施設見学させていただいている。そこで出た意見や情報を参考にし、サービスの質の向上に努めている。毎年違うスタッフが参加している。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に生活している部屋を見せていただいたり、ご本人に直接会って要望を聞いている。ゆっくり話をする事で、安心感を持っていただけるようにしている。また、ご家族や担当のケアマネージャーから情報収集している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 契約時やアセスメントを収集する時に、ご家族の困っている事や不安に思っている事をさりげなく聞いている。また、ご家族の方が話しやすい雰囲気作りをしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人やご家族から希望を聞き、ケアプランを作成している。必要であればリハビリ等のサービスを提供している。グループホームの生活に合わないと思われる場合、他のサービスを紹介している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日々の生活からコミュニケーションを多く取る様に心がけ、信頼関係を築いている。顔なじみになると、さりげなく笑顔が見れたり安心した表情をされる。支え合って生活する事を、目指している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時は状況や状態を細かく伝え、ゆっくりと過ごしていただいている。面会に来られてもすぐに帰られるご家族の方にも、スタッフが間に入り、話をさせていただいている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの方が来られると、ゆっくりとくつろげるよう配慮している。ドライブに行く際は、できるだけ馴染みの場所に行くよう心掛けている。 | ドライブでかつての職場の近くや商店街、馴染みのうどん屋に行くなどしている。また、友人がデイケアや併設の病院の外来に来た際に、事業所に立ち寄ることがあり、その際はゆっくりと交流できるよう配慮している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 毎日、個々の申し送りを行っている。入居者様同士でも馴染みの関係ができており、楽しく生活できている。また、スタッフが間に入り、孤立しないよう支援できている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用が終了しても、快く相談に応じるようにしている。生け花の花展にも招待していただき、付き合いを続けている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ケアプランを作成する際は、ご本人に要望を聞いている。把握するのが困難な場合は、センター方式を利用したり、ご家族から情報を収集している。また、カンファレンス時に検討している。 | 1人の利用者に対し、複数の職員がセンター方式の様式を活用することで、利用者の思いや意向をより多角的に推測・把握できるよう努めている。また、当事業所には、同法人のケアハウス等を経て入居するケースが多く、その際は十分な情報収集を心がけている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人やご家族、担当ケアマネージャーから情報を収集し、対応している。また、センター方式(生活歴シート)も利用している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 月2回のカンファレンスを行い、統一した介護や支援をするようにしている。また、小さな変化があった時も、きちんと記録に残し、職員全員が把握できるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | センター方式を利用しており、ご本人ご家族の要望を取り入れたプランを作成している。また、3か月に1回、カンファレンス時にモニタリングを行い、意見を出し合っている。変化に合わせ、臨機応変にプランの見直しを行っている。 | センター方式の様式を活用しつつ、3か月に1回、カンファレンス時にモニタリングを行い、職員の意見を計画に反映させるようにしている。退院後など、利用者の状態に変化があった場合はその都度、計画を見直している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者の状態に変化があれば、記録に細かく記入している。申し送りや業務管理日誌等で説明、周知している。またカンファレンス等で話し合いを行い、ケアプランの作成、見直しを行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 併設している病院やリハビリ等としっかり連携を取りながら、利用者に対して最善のサービスが提供出来るように努めている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域住民から紹介して頂いた催し物を、見学に出かけている。地区の文化祭にも、スタッフとご本人の得意分野を活かして作品を作り、参加してもらっている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前からのかかりつけの医療機関がある場合は、ご家族の協力を得て受診している。また、受診内容を報告していただき、適切な医療が受けられるよう支援している。 | 本人・家族の希望を尊重しつつ、併設の病院では脳外科や内科、整形外科等、複数の診療科があり、多くの利用者が入居後、当該病院を利用している。なお、本人や家族が併設の病院以外での受診を希望する場合は、送迎等は家族に協力してもらっている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 併設病院の看護師を配置しており、介護職員は利用者の異常に気付いた時はすぐに報告し、適切な医療・看護を受ける事が出来る。夜間帯でも併設している病院で対応する事が出来る。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には病室に行く機会を多く持ち、入居者に安心していただいている。また、医療機関との情報交換を密に取り、早期退院に向けての対応をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 看取りが必要になった場合は、ご本人やご家族の希望をできるだけ取り入れ、その方針をチーム全体で支援している。 | 当事業所では、喀痰吸引や経管栄養等、医療的なケアが必要となった場合は、入院もしくは適切な施設に異動してもらうこととしており、入居時や状態が変化した際に都度、家族に説明している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 24時間体制の病院が併設されており、緊急時のマニュアルもあり、職員全員理解し、実施できている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回、日中と夜間想定での避難訓練を行っている。しかし、地域との協力体制は不十分である。 | 年2回、夜間を想定した消防避難訓練を実施している。訓練の際には、併設の病院や隣接の施設に応援を要請するなど、協力体制を築いている。また、約3日分の備蓄を用意している。 | 火災のみならず、地震等の様々な災害を想定して訓練の実施を期待したい。災害時は、特に大規模震災時は、規模により様々な状況が発生することになるので、よりスムーズに通報や避難誘導などができるよう、災害別のフローチャートの作成などの取り組みを期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個々の人権を尊重した声かけや対応を、心がけている。また、個人情報の守秘義務を、職員全員に徹底している。 | 管理者は、常に家族がいると思って利用者に接するよう職員に指導するとともに、不適切な言葉遣い等は、職員同士でその場で注意し合うようにしている。また、カンファレンス等で繰り返し話し合っている。 | 利用者の尊厳を守ることはもっとも大切なことであり、中でも利用者に対する言葉遣いや語調等は、特に留意する必要がある。引き続き職員の理解を深めるための取り組みを期待したい。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 自ら意思を伝えられる方は、希望を聞いて実践している。自分から意思を伝えられない方には、選択肢を用いて自己決定していただいている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者様の意思を尊重し、その時に受け入れられない場合は、無理強いせず時間をおき、個人のペースに合わせ支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご家族の協力を得て、馴染みの美容室に行っている方もいる。また、希望のある方は、出張理容サービスを利用している。外出時は一緒に服を選び、お洒落をして出かけられている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 月1回食事作りやおやつ作りを実施しており、入居者様と一緒にメニューを考え、協力してもらっている。また、食後の洗い物やお盆拭き等も、スタッフと一緒にやっている。 | 法人の栄養士の献立のもと、事業所の畑で獲れた野菜を食材として使うなど、旬のものが味わえるよう工夫している。また、お茶を注いだり、味噌汁をよそうなど、利用者に手伝ってもらったり、月に2回のおやつ作りでは、利用者と職員と一緒に調理することで、食の楽しさが増すよう努めている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの食事量を常に把握し、摂取量が少ない方には、嗜好品や補助食品で対応している。必要時、別紙に細かくチェックしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアの声かけをし、誘導している。自分で行う事が困難な方は、スタッフが介助している。また、定期的に義歯の消毒も行っている。不具合が生じた場合は、訪問歯科を利用している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ご本人の訴え時や定期的に、トイレ誘導を行っている。また、トイレチェック表を使用し、排泄や排便パターンを把握している。車椅子の方でも、トイレに移乗していただき、排泄を促している。 | 職員のペースではなく、利用者の排泄パターンを把握したうえで、全員がトイレで排泄できるように支援している。誘導の声かけは、さりげなく小さな声で行うよう配慮している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘がちの方には、水分を多めに飲んでいただくたり、食物繊維の多い物や乳製品のおやつを提供している。入浴時も腹部を温めマッサージしたり、定期的にトイレ誘導を行い、自然排便を促す等、個々に応じた取り組みをしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入居者様の希望を取り入れながら、週3回入浴を実施している。また、夜間浴も取り入れ、落ち着いて快眠できるように支援している。拒否する方は、時間を空けて対応したり、好きな時に入浴していただいている。 | 快眠できるよう夜間浴を取り入れつつ、週3回入浴を実施している。入浴の声かけから最後まで、同じ職員が一貫して支援するなど、利用者が落ち着いてゆっくりと入浴できるよう工夫している。入浴を拒否する利用者には、職員が交代で声をかけ、時には翌日に入浴する等、週3回は入浴してもらえるように努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 入居者様の様子を見て、居室で休んでもらっている。車椅子の方も褥瘡予防の為、同様の対応をしている。また、夜間不穏状態のある方やなかなか寝つけない方には、温かい飲み物を提供したり、安心できるように話をしたり対応している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個人カルテに、内服中の薬について分かりやすく記載している。薬が追加されたり、変更になった場合は、注意点等を業務管理日誌に記載して、職員に周知している。また、状態に少しでも変化が見られた場合は、すぐに看護師に報告している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | それぞれの方が昔得意だった事等、ご本人やご家族の方から伺い、できるだけ継続できるよう、レクリエーション等に取り入れ、楽しんでいただいている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 近隣への散歩や畑作業、スーパーに買い物に出かけている。また、定期的にドライブ月間を設け、入居者様の希望をふまえて行き先を決めている。ご家族と月に何度か外出される方もいる。 | 日常的には、近所の神社の掃除や事業所の畑の草抜きなどで外出しつつ、ドライブで五色台に行ったり、菖蒲を見に行くなど、外出が楽しめるよう支援している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お小遣い程のお金を、自分で管理している方もいる。その他の方は、基本施設で管理している。しかし、外出時は、自分で品物を選んでもらい、購入していただいている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙を書いたり、自ら電話をかけられる人はいないが、ご本人の希望次第では電話をかけ、話をしてもらう事ができるような体制をとっている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングの温度は、季節やその天候によって調整している。また、玄関には季節の花を活けたり、リビングの壁にも季節感のある掲示物や、月々の行事の掲示し、視覚で楽しんでもらえるよう工夫している。 | 館内は、温かみのある落ち着いた照明のもと、クリスマスツリーなどの季節の飾りつけや、各ユニットにソファを置き、家庭的な雰囲気が醸し出されている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 入居者様一人ひとりに落ち着ける座席があり、個人の座布団等でその方の居場所だと分かるようにしている。また、廊下やテレビ前にソファを設置し、仲の良い入居者様同士で、ゆったりと時間を過ごす事のできるスペースを設けている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご家族の方と話し合い、自宅で使用していた馴染みの物を持ってきていただいている。また、安心して過ごす事ができる環境を作る為、居室内にご家族写真や馴染みの物を配置している。また、ご本人の状態に応じて模様替えも行っている。 | 入居の際に、使い慣れたものを持参されるよう家族に説明しており、家族の写真や馴染みのものを置かれ、利用者が落ち着いて過ごせるよう工夫している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレが分からない方の為に、入り口に張り紙をしたりして、分かりやすくしている。また、家事全般を安全に行えるよう広いスペースを確保し、見守りを行いながら自立した生活が送れるよう支援している。 | | |

| V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します | | | | | | | |
|--|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 |
|--------------------|-----|---|--|
| | | | 実践状況 |
| I. 理念に基づく運営 | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 グループホーム メイプル | 「心やすらぐあったかコミュニティー」の理念のもと、職員全体が理解し業務にあたっている。またリビングに掲示し、毎日見るようにしている。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 運営推進会議等で民生委員の方から情報を得て、府中の催し物(カヌーフェスティバル)に参加している。また文化祭に入居者様が作った作品を掲示したり、介護予防教室にも積極的に参加している。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地区の文化祭への参加、近所のあおい神社周囲のゴミ拾い。隣接の病院で認知症カフェをしており、11月から少人数で参加する予定である。 |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回運営推進会議を実施しており、報告や情報交換を行っている。そこで出た意見を申し送り時やカンファレンス時に話し合い、サービス向上に活かしている。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議に市役所の方が参加してくれ、報告したり、疑問点を聞いている。また疑問点や問題点がある時は、その都度相談し、協力関係を築けている。 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 行動把握として赤外線センサーやセンサーマットを使用している。定期的に話し合いを行い、身体拘束のないケアの実現を目指している。センサーを使う場合は、カンファで話し合い、ご家族に説明している。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 |
|----|-----|---|--|
| | | | 実践状況 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員一人ひとりに自覚を持ってもらう為、カンファレンス時に話し合いを行っている。 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 以前入居していた方が成年後見制度を利用していましたが、その後は後見制度の利用している人はいない。勉強会等で、知識向上に努める必要がある。 |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時の時はご本人、ご家族に対し施設の見学やゆっくりと時間をかけて説明している。またご本人、ご家族等の意見も聞き、理解、納得を得ている。 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者様とは、日頃の会話から要望を聞くようにしている、ご家族には面会時に要望を聞くようにしている。それらをケアプランに取り入れている。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月のチームカンファレンスや全体カンファレンス時に、話し合いの場を持ち、意見を出している。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年に2回人事考課表で意見や要望を伝えている。また、月1回の全体カンファレンス時にも意見や要望を言う機会があり、反映される所もある。 |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修への参加や法人内の勉強会に参加している。また、毎月のカンファレンス時に勉強会を行い、技術や知識の向上に努めている。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 |
|------------------------------|----|--|---|
| | | | 実践状況 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 3か月に1回、グループホーム連絡会を開催しており、市内のグループホームの方と意見交換を行ったり、施設見学させていただいている。そこで出た意見や情報を参考にし、サービスの質の向上に努めている。毎年違うスタッフが参加している。 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に生活している部屋を見せていただいたり、ご本人に直接会って要望を聞いている。ゆっくり話をする事で、安心感を持っていただけるようにしている。また、ご家族や担当のケアマネージャーから情報収集している。 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 契約時やアセスメントを収集する時に、ご家族の困っている事や不安に思っている事をさりげなく聞いている。また、ご家族の方が話しやすい雰囲気作りをしている。 |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人やご家族から希望を聞き、ケアプランを作成している。必要であればリハビリ等のサービスを提供している。グループホームの生活に合わないと思われる場合、他のサービスを紹介している。 |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日々の生活からコミュニケーションを多く取る様に心がけ、信頼関係を築いている。顔なじみになると、さりげなく笑顔が見れたり安心した表情をされる。支え合って生活する事を、目指している。 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時は状況や状態を細かく伝え、ゆっくりと経過していただいている。面会に来られてもすぐに帰られるご家族の方にも、スタッフが間に入り、話をさせていただいている。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 |
|------------------------------------|-----|---|--|
| | | | 実践状況 |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの方が来られると、ゆっくりとくつろげるよう配慮している。ドライブに行く際は、できるだけ馴染みの場所に行くよう心掛けている。 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 毎日、個々の申し送りを行っている。入居者様同士でも馴染みの関係ができており、楽しく生活できている。また、スタッフが間に入り、孤立しないよう支援できている。 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用が終了しても、快く相談に応じるようにしている。生け花の花展にも招待していただき、付き合いを続けている。 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ケアプランを作成する際は、ご本人に要望を聞いている。把握するのが困難な場合は、センター方式を利用したり、ご家族から情報を収集している。また、カンファレンス時に検討している。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人やご家族、担当ケアマネージャーから情報を収集し、対応している。また、センター方式(生活歴シート)も利用している。 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 月2回のカンファレンスを行い、統一した介護や支援をするようにしている。また、小さな変化があった時も、きちんと記録に残し、職員全員が把握できるよう努めている。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 |
|----|------|--|--|
| | | | 実践状況 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | センター方式を利用しており、ご本人ご家族の要望を取り入れたプランを作成している。また、3か月に1回、カンファレンス時にモニタリングを行い、意見を出し合っている。変化に合わせ、臨機応変にプランの見直しを行っている。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者の状態に変化があれば、記録に細かく記入している。申し送りや業務管理日誌等で説明、周知している。またカンファレンス等で話し合いを行い、ケアプランの作成、見直しを行っている。 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 併設している病院やリハビリ等としっかり連携を取りながら、利用者に対して最善のサービスが提供出来るように努めている。 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域住民から紹介して頂いた催し物を見学に出かけている。地区の文化祭にも、スタッフとご本人の得意分野を活かして作品を作り、参加してもらっている。 |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前からのかかりつけの医療機関がある場合は、ご家族の協力を得て受診している。また、受診内容を報告していただき、適切な医療が受けられるよう支援している。 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 併設病院の看護師を配置しており、介護職員は利用者の異常に気付いた時はすぐに報告し、適切な医療・看護を受ける事が出来る。夜間帯でも併設している病院で対応する事が出来る。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 |
|----------------------------------|------|---|---|
| | | | 実践状況 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には病室に行く機会を多く持ち、入居者様に安心していただいている。また、医療機関との情報交換を密に取り、早期退院に向けての対応をしている。 |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 看取りが必要になった場合は、ご本人やご家族の希望をできるだけ取り入れ、その方針をチーム全体で支援している。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 24時間体制の病院が併設されており、緊急時のマニュアルもあり、職員全員理解し、実施できている。 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回、日中と夜間想定避難訓練を行っている。しかし、地域との協力体制は不十分である。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個々の人権を尊重した声かけや対応を、心がけている。また、個人情報の守秘義務を、職員全員に徹底している。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 自ら意思を伝えられる方は、希望を聞いて実践している。自分から意思を伝えられない方には、選択肢を用いて自己決定していただいている。 |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者様の意思を尊重し、その時に受け入れられない場合は、無理強いせず時間をおき、個人のペースに合わせ支援している。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 |
|----|------|--|---|
| | | | 実践状況 |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご家族の協力を得て、馴染みの美容室に行っている方もいる。また、希望のある方は、出張理容サービスを利用している。外出時は一緒に服を選び、お洒落をして出かけられている。 |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 月1回食事作りやおやつ作りを実施しており、入居者様と一緒にメニューを考え、協力してもらっている。また、食後の洗い物やお盆拭き等も、スタッフと一緒にやっている。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの食事量を常に把握し、摂取量が少ない方には、嗜好品や補助食品で対応している。必要時、別紙に細かくチェックしている。 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアの声かけをし、誘導している。自分で行う事が困難な方は、スタッフが介助している。また、定期的に義歯の消毒も行っている。不具合が生じた場合は、訪問歯科を利用している。 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ご本人の訴え時や定期的に、トイレ誘導を行っている。また、トイレチェック表を使用し、排泄や排便パターンを把握している。車椅子の方でも、トイレに移乗していただき、排泄を促している。 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘がちの方には、水分を多めに飲んでいただいたり、食物繊維の多い物や乳製品のおやつを提供している。入浴時も腹部を温めマッサージしたり、定期的にトイレ誘導を行い、自然排便を促す等、個々に応じた取り組みをしている。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 |
|----|------|---|--|
| | | | 実践状況 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴を嫌がられる方もいます。時間帯を変更したり同性・異性スタッフが交合に対応している。 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 入居者様の様子を見て、居室で休んでもらっている。車椅子の方も褥瘡予防の為、同様の対応をしている。また、夜間不穏状態のある方やなかなか寝つけない方には、温かい飲み物を提供したり、安心できるように話をしたり対応している。 |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個人カルテに、内服中の薬について分かりやすく記載している。薬が追加されたり、変更になった場合は、注意点等を業務管理日誌に記載して、職員に周知している。また、状態に少しでも変化が見られた場合は、すぐに看護師に報告している。 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | それぞれの方が昔得意だった事等、ご本人やご家族の方から伺い、できるだけ継続できるよう、レクリエーション等に取り入れ、楽しんでいただいている。 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 近隣への散歩や畑作業、スーパーに買い物に出かけている。また、定期的にドライブ月間を設け、入居者様の希望をふまえて行き先を決めている。ご家族と月に何度か外出される方もいる。 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お小遣い程のお金を、自分で管理している方もいる。その他の方は、基本施設で管理している。しかし、外出時は、自分で品物を選んでもらい、購入していただいている。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 |
|----|------|--|--|
| | | | 実践状況 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙を書いたり、自ら電話をかけられる人はいないが、ご本人の希望次第では電話をかけ、話をしてもらう事ができるような体制をとっている。 |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングの温度は、季節やその天候によって調整している。また、玄関には季節の花を活けたり、リビングの壁にも季節感のある掲示物や、月々の行事の掲示し、視覚で楽しんでもらえるよう工夫している。 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 入居者様一人ひとりに落ち着ける座席があり、個人の座布団等でその方の居場所だと分かるようにしている。また、廊下やテレビ前にソファを設置し、仲の良い入居者様同士で、ゆったりと時間を過ごす事ができるスペースを設けている。 |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご家族の方と話し合い、自宅で使用していた馴染みの物を持ってきていただいている。また、安心して過ごす事ができる環境を作る為、居室内にご家族写真や馴染みの物を配置している。また、ご本人の状態に応じて模様替えも行っている。 |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレが分からない方の為に、入り口に張り紙をしたりして、分かりやすくしている。また、家事全般を安全に行えるよう広いスペースを確保し、見守りを行いながら自立した生活が送れるよう支援している。 |